

事務事業名	公共交通の確保事業	事業期間	～	年度	係内番号	03
担当部署	企画部	地域戦略課	地域創生係	連絡先	232	

計	政策番号	05	基本計画	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高						
			基本計画①		01	都市計画マスタープラン	0203	公共交通等の整備方針								
			基本計画②		01	都市計画マスタープラン	0203	公共交通等の整備方針								
			実行計画		13	茅野市・原村生活交通確保維持改善計画	0102	地域内バス交通の構築								
画	予算事業名	バス交通確保事業費					会計コード	01	款	02	項	01	目	07	事業	03
	事務事業の概要	生活路線バスの利用者が減少し、バス事業者から「不採算バス路線の見直し協議の申入れ」がなされ、「茅野市公共交通あり方検討会議」や「茅野市・原村地域公共交通活性化協議会」等の議論を経て策定した「地域公共交通総合連携計画」に基づく実証運行を行い、地域にふさわしい公共交通のあり方を検討している。また、観光路線である蓼科ラウンドバス及びメルヘン街道バスの運行経費の一部を補助している。														
	現状と背景	マイカーの普及やライフスタイルの変化の中で、公共交通の利用者は減少し続け、営利事業として成り立っていくことが困難になっている。その中で、障害のある人や高齢者等の交通弱者だけでなく、すべての市民や観光客が利用しやすい交通手段の確保が課題である。														
	目的	受益者	日常生活をおくる上で公共交通が欠かせない市民及び観光客													
L	対象	対象	茅野市・原村地域公共交通活性化協議会、バス事業者													
	的意	意	障害のある人や高齢者等の交通弱者だけでなく、すべての市民が利用しやすい交通手段のあり方を検討し、構築する。また、観光客の移動手段を確保することにより、観光振興にもつなげていきたい。													
	手段・方法	方法	茅野市・原村地域公共交通活性化協議会などを通じ、バス事業者・タクシー事業者などの交通事業者の連携や、市・市民・公共交通利用者・商業観光等の事業者などの連携により、地域にふさわしい公共交通のあり方を、負担のあり方も含めて検討し、構築する。あわせて、観光路線バスの運行維持のため運行経費の一部を補助する。													
	A	評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値									
1			路線バスの利用者数を把握する	路線バス利用者数（1日当たり）	人	利用者が増えることが、地域にふさわしい公共交通のあり方につながる	684									
2																
3																
実	状況	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値										
		1	地域にふさわしい公共交通のあり方を見い出す	利用者満足度の向上	%	路線バス満足利用者数÷意見聴取利用者数	100									
		2	効率的なバス運行	1便当たりのバス乗車人数	人	路線バス満足利用者数÷運行便数	9									
		変更履歴														

実	施	状	項	目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度			
			事業費等(a)	円	92,413,398	93,039,754	81,461,000						
			財	国庫支出金	円								
			源	県支出金	円								
			内	地方債	円								
	況	指	標	活動	路線バス利用者数（1日当たり）	目標	人	684	684	684			
						実績	人	550	486				
						達成率	%	80.41	71.05	-	-		
				成果	利用者満足度の向上	目標	%	100	100	100			
						実績	%	78	80				
						達成率	%	78.00	80.10	-	-		
				備	考	1便当たりのバス乗車人数	目標	人	9	9	7		
							実績	人	6	5			
							達成率	%	66.67	60.00	-	-	

事務事業名	公共交通の確保事業		事業期間	～	年度	係内番号	03
担当部署	企画部	地域戦略課	地域創生係		連絡先		232

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	～成果～	ダイヤや運行日に対する満足度は改善されていない。利用者の要望等を聞く中で、利便性、公平性、経済性を考慮したバス交通を考えていく必要がある。	行楽シーズンを直撃した台風19号や新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、利用者数、便平均利用者数共に減少した。利用されている方の満足度は100円乗車キャンペーンの実施などで高いものであるが、より利便性の高い公共交通施策を検討する必要がある。			
価値	総合評価	利用者ニーズと利便性向上のためのダイヤ変更等を実施した。利用者が年々減少していく中ではあるが、免許自主返納者など、潜在的な需要は高まっていくと考えられる。	利用喚起の観点から100円乗車キャンペーンを実施し、前年比約20%の増となった。また、利用者のニーズに応えるため、ポケット版時刻表に運賃表を掲載するなど、利用者獲得に向けた取り組みを行った。			
	課題	利用者ニーズを把握し、より効果的な運行を検討していかなければならない。また、国の補助が減少する中、市の財政と福祉施策を含めた将来投資としてのバス交通を総合的に評価し、茅野市に合った公共交通の体系を模索していく必要がある。	現状のバス路線は、地形的な特徴から、高コストで非効率な交通網であり、多様な住民ニーズに対応できていない。利用者数は低調であり、運行会社の経営は成り立っていない。さらに、市の運行費補助金は年々増加しており、現状を打開するための抜本的な公共交通体系への組換えが必要である。			
改革	成果	拡充	拡充			
	コスト	縮小	縮小			
改善の方向性	改善の方向性	・バス交通を利用する人の潜在的ニーズはあると考えている。利用者の安全面やバスに愛着を持ってもらうため、老朽化したバスの更新を行うなど、バスを利用しやすい環境を整えていくための施策を検討・実施し、一層の利用者増に向けた取り組みを行っていく。 ・バスの購入費用がなくなることによるコスト減	現行のバス路線は、曜日運行や非効率経路などで住民ニーズに即した移動手段とはなっていない。利用者の利便性を高め、潜在需要者を獲得していくためには大胆な公共交通網の組換えが必要であり、それを定着させることによってコストの削減を図る。			
	策					

作成担当者	小林 弘夫	小林 弘夫			
最終評価責任者	田中 裕之	田中 裕之			
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日			